



★糸杉に続いて“うずまき雲”も出来ました！

[女性陣の糸杉]に続いて、男性陣による奮闘で漸く“うずまき雲”が出来上がりました。毎日少しずつでしたが、貼り付けに合計2週間程かかりました。同じものをもう一つ作る予定です。入居者の皆さんには「星月夜」の絵をどの部分を作っているか時折、説明してください。何色の三つ編みが良いか等と皆さんとお喋りを楽しみながら進めてください。



2ユニットの皆さん

出来上がり！ばんざーい！



星月夜

★私達は何故“ゴッホ”を選んだか？ もう一度。

—きみどりゴッホ展より再録

◆ 学校での美術、造形の時間で教わった“ゴッホ”は私たちの中でどんなイメージで残っているのでしょうか。「情熱、狂気、殉教、魂の画家、変人、耳切事件、自殺、ひまわり、沸騰している精神、好色家、狂人、天才、怠け者、探求者」などの多くのレッテルがすぐにでも出てきます。ですから、個人的な趣味、関心の範囲であっても、福祉（介護）の世界で働いている私たちからは少し遠い存在でした。しかし、スポットライトをもう少し違った面に当ててみるとゴッホの違った像が見え始めてきました。「誰かの役に立ちたい・・・何かの役に立ちたい・・・。」そうした思いがいつも心の底に流れていたことが浮かび上がってきたのです。

◆ ゴッホは牧師の家庭に生まれました。その影響もあってか、苦しんでいる人、困っている人、悲しんでいる人に対してとても敏感でした。事実、伝道師になったゴッホは炭鉱で働く人々の中で自らを省みず働きますが、一生懸命すぎて伝道師も辞めさせられてしまいます。しかし、誰かの役に立ちたい・・・何かの役に立ちたい・・・。生計を立てようと画家になっても、その思いは変わらず、事実、悲しむ老人や炭鉱の人々や厳しい農作業の人々、そして刑務所で運動する囚人まで描いています。

◆ 困った人、悲しんでいる人を前にして東奔西走した宮澤賢治。晩年を名声と私財をかけて戦争や貧困の地域を訪ね、飢えや病気に苦しむ子供たちを抱いたオードリー・ヘップバーン。古今東西にはこうした生き方を選んだ先達が数えきれない程、多くいますが、ゴッホもそうした生き方を望んでいたひとりだったに違いありません。文学者・頭木弘樹さんは書籍『NHK ラジオ深夜便 絶望名言』でこう言います。「現代にもゴッホが生きていたらきっとヘルパーになっていただろう」と。福祉の世界で働く私達の心にどこか触れるところがないのでしょうか？

◆ 学童保育・たいよう学園との交流会の今年のテーマは「あなたの為にできることがありますか？」です。そして今年度のアミュー展示会のテーマは“ゴッホの世界”です。上手に説明できませんが、私たちのアミュー展示会に向けてのモチーフはそのあたりにあります。

【三つ編みをしながら】 「嬉しいな、三つ編み出来るの？」という言葉が漏らしたのは K さん。余暇活動に提案しようかと迷っていると、こんな言葉が聞こえてきました。普通、思っている気持ちを率直に口にしたりすることは、なかなか珍しいことです。私達は皆さんの表情などから推測することが多いですが、でもこのようにはっきりと喜ばれると、職員冥利に尽きます。モチベーションもさらに上がります。私達は皆さんの認知機能(エピソード記憶)が如何に後退しようとも、楽しかった、嬉しかった、心地よかった等々の感情記憶をしっかりと心に刻んでいただければと思っています。それこそが日々の記憶の後退を緩和し、私達の出来る支援の一つなのだと思います。余暇活動は単なる時間つぶしではありません。介護界でしばしば語られる「QOL(生活の質)の向上」はこうしたことにも支えられており、皆さんの暮らしかたの能動的な精神性にもつながっていくのではないのでしょうか。ここでいう余暇活動とはオーリーブケア(個別ケア)やグループアクティビティのことを指しています。追伸:三つ編みはまだ足りません。ご協力を！

【うずまき雲】 私達はこのうずまき雲のような雲を見たことはないけれど、夏の積乱雲を入道に、秋の雲をいわしに見立てたり、そして子供達には白い大きな雲がクジラに見えたように、夜空に大きく渦巻く雲をゴッホは何かに見立てていたのだと思っていました。学術的な解説は別として、人それぞれ見方があります。「ゴッホのあしあと」「たゆたえども沈まず」の著者原田マハさんは「ゴッホが一番書きたかったのはパリを流れるセヌ川です」と書きます。「パリから離れたサンレミの精神療養院(一番辛かった時期)で一番描きたかったセヌを“夜空に渦巻く雲”として表現したのではないか」と。そう言われると、確かに、渦巻きながら滔々と流れるセヌなのかなと思ったりしてしまいます。

【紙面拝借】 10月は行事が様々ありました。月初めには餃子パーティ。1ユニットに皆さん集まり、炊き込みご飯のお握りを職員とともに作りました。炊き立てのご飯を団扇で力強く扇ぐ男性、おにぎりを握るぐらいは朝飯前とばかり、お盆に次々と並べていく女性の皆さん。手の動かない方もしっかり見つめられて応援していました。次に餃子づくり。♪“ぎょぎょ・ぎょうぎ”で始まる BGM「餃子マーチ」を聞きながら、450個の餃子を包み込みました。皆さんの【昔取った杵柄】は流石です。中庭で男性職員が6台のコンロで焼き、熱々を楽しみました。ソフト食の方たちも一緒にテーブルにつき楽しい半日を過ごしました。勿論、日頃物静かな S さんの「ビールが欲しいな」という小さな呟きも聞き逃さない施設長により、途中からテーブルが更に賑やかになりました。



握る!

張り切る女性スタッフ

包む!

乾杯!

♪餃子パーティ 始まるよ!

熱〜い!